



(S) 新潮社版

印 刷／昭和五十年十二月二十日  
發 行／昭和五十年十二月二十五日

平野謙全集 第十三巻

著 者／平野謙

發行者／佐藤亮一

發行所／株式会社新潮社 郵便番号一六二 東京都新宿区

矢来町七一 電話東京二六六一五一一一（業務）  
二六六一五四一一（編集） 振替東京四一八〇八

印刷所／塚田印刷株式会社

製本所／神田加藤製本株式会社

定 価／三〇〇〇円



乱丁・落丁本は、御面倒ですが小社通信係宛御送付  
下さい。送料小社負担にてお取替えいたします。

平野謙全集／第十三卷 ■ 目次

## はじめとおわり

I

批評家白書

.....

続・批評家白書

.....

II

平野探偵の手記

.....

イエス・ノウ旅日記

.....

Q君へ

.....

伊藤整の『現実と表現』

.....

わが文学生活

.....

文学的リアリティについて

.....

文藝評論家とは

.....

花田清輝の笑い

.....

私のペンネーム

.....

58

56

55

54

50

48

47

45

41

34

20

私の処女出版	59
名文について	59
文士の正月	60
写真と実物	62
文士の筆蹟	63
あの頃のこと	65
藉すに歲月をもつてせよ	66
ひきうつし精神	73
すてた話	75
みずほ荘殺人事件	77
犯人当て推理小説の条件	82
無邪気な話	88
アンボ反対	91
社会的と実存的	92

わたくしごと	.....
一年に二度のお雑煮	.....
一市民のおそれ	.....
試験答案の一傑作	.....
事実認識のむずかしさ	.....
はじめとおわり	.....
ささやかな訂正	.....
魯迅記念館にて	.....
非文学的な空想	.....
日 記	.....
三十六年ぶりの旅	.....
老戻のことなど	.....
わたしの母校	.....
若き日の読書	.....

129 127 126 123 120 118 116 111 107 105 102 100 98 95

文士の細君	133
わが地理オンチ	135
母の記憶	137
ソヴィエト・ロシアの旅	138
旧友の死	143
ひとつと思い出	144
ふるさとざらい	145
ヘマンギオーム	147
まちがえられた話	150
ひとこと	152
不愉快な思い出	153
小さな思い出	156
最近の読書	157
私の隨筆集	159

作家論二十五年	160
一編輯者の死	166
因果な関係	169
締切り日のこと	170
電話送稿のこと	171
雑誌の話	172
本の思い出	174
ひとつの提灯記事	176
埋れた名著	179
題名の由来	180
Ⅲ	
池田寿夫と『地区の人々』	182
ひとつの回想	183
明治文学の研究文献	185

『文学界』沿革記	189
ちいさな感想	189
高見順のこと	192
江戸川乱歩のこと	193
私の近刊	195
同人雑誌時代	197
高見順にのぞむ	198
土屋隆夫のこと	201
岩野泡鳴夫人の日記	204
小説の毒	206
初版本『蟹工船』について	209
文学史研究の一条件	211
有吉佐和子のこと	214
ナップ創立三十五周年	216
	218

明治・大正期の『新潮』	221
むかしの同人雑誌	232
『大学左派』のことなど	234
文字どおりの処女作	239
独善的な読み方で	242
本との出逢い	244
名著発掘	245
一冊の本	247
寄贈本のこと	249
田口憲一のことなど	250
読書遍歴	252
ひとりの漫画家	256
私の文章観	257
大石誠之助の墓	261

沖野岩三郎のこと	263
加田伶太郎のこと	266
まぼろしの作品	267
続・まぼろしの作品	270
上司小剣の一側面	273
『奇蹟』と広津和郎	275
応分の力をつくしたい	278
大江健三郎のことなど	278
<b>IV</b>	
むかしばなし	281
北村透谷と『罪と罰』	284
発売禁止論	288
臨終の言葉	294
断章	298

横断歩道橋の意味するもの	316
道路がとおれば道理ひっこむ	319
公共の福祉という思想	324
傍観的立場をすべて	333
厚い壁との対決	335
ささやかな成功	338
土地区画整理法のカラクリ	341
わが住民運動始末記	345
危く町会長に	357
美濃部都知事に問う	359
美濃部都知事に答う	363
住民運動の一年半	366
土地区画整理法のこと	366

わが住民運動の一結論

VI

アラヒトガミ事件

情報局について

応召十日間

VII

『わが家の平和』

稚 恋

回想・北川静男

なすなし

選評

文学界新人賞選評

群像新人文学賞選評

女流文学賞選評

『読者の書評』選評

『東京大学新聞』五月祭賞選評

推理作家協会賞選評

『時』新人賞選評

新潮社文学賞選評

日本文学大賞選評

野間文藝賞選評

読売ベスト・シリイ

### あとがき集

『島崎藤村』あとがき

『現代作家論』あとがき

『戦後文藝評論』あとがき

『知識人の文学』	あとがき	531
『現代日本文学辞典』	緒言	533
『現代日本文学辞典』	改訂増補版序	535
『現代日本文学入門』	あとがき	537
『島崎藤村』	市民文庫版あとがき	539
『討論・日本プロレタリア文学運動史』	あとがき	541
『昭和文学入門』	あとがき	543
『戦後文藝評論』	青木書店版あとがき	544
『政治と文学の間』	あとがき	546
『組織のなかの人間』	あとがき	548
『藝術と実生活』	あとがき	550
『藝術と実生活』	ミリオン・ブックス版あとがき	552
『文藝時評』	あとがき	553
『昭和文学史』	あとがき	557

『知識人の文学』名著シリーズ版あとがき	558
『わが戦後文学史』あとがき	562
『文学運動の流れのなかから』あとがき	564
『文藝時評』（上）あとがき	567
『文藝時評』（下）あとがき	569
『昭和文学覚え書』あとがき	574
『作家論』あとがき	579
『はじめとおわり』あとがき	581
『平野謙作家論集』あとがき	583
『平野謙対話集』あとがき	586
『文学・昭和十年前後』あとがき	589
『昭和文学の可能性』あとがき	591
『於母影』あとがき	593
『わが戦後文学史』名著シリーズ版あとがき	596